





館長のつれづれだより 日本美術の中の動物

昨年の11月初旬に日本経済新聞の朝刊 紙面に、表記のようなコラム的な記事を10 回にわたって書きました。10月上旬のとあ る日、広報担当の磯野さんから、日経新聞 から原稿依頼の電話がありましたとの伝言 を受けたので、知らされた通りに、折り返し 担当の記者に連絡を取ると、それは、この夏、 ワシントン D.C.のナショナルギャラリーで開 催された「日本美術に見る動物の姿」展に因 んで、そこに展示された作品から10点を選 び、それぞれに350字程度の解説を付ける という依頼でした。原稿は10月25日にまず 5点、残りの5点は11月1日までとのこと。磯 野さんにそれを話すと「間に合いますか」と 一言。そういう磯野さんの言葉には真実味 があるのです。わたしが館長に就任しては じまった本誌の「館長のつれづれだより」の 担当は、まさに磯野さんでした。遅筆を通 り越して、ただの怠惰の故によってさんざん に彼女を苦しめた前科がわたしにはあるの です。疑われて当然です。しかし、即座に、「無 論出来るよ」と言った訳ですが、このやり取 りが弾みとなって、十選「日本美術の中の動

物」は、日経誌に無事掲載されたのです。

ここで「日本美術に見る動物の姿」展開催 の経緯を少し説明しておきましょう。この展 覧会の企画は、ロスアンゼルスカウンティ 一美術館で日本美術を担当するロバート・ シンガー氏が立案し、日本の国際交流基金 に持ち込み、両者と実際に展覧会の会場に なる前述のナショナルギャラリーの三者によ る共同主催の形式で行われることになった のです。ところがナショナルギャラリーには、 日本美術担当の学芸員がいないので、展 示作品の選定と同時に日本から絵画、彫刻、 工芸などの分野にそれぞれ学芸員を送り込 む必要がありました。そこでまとめ役として わたしがその任に当たることになったので す。シンガー氏とは50年におよび交友があ ったという理由もそこにはありました。東京 国立博物館、サントリー美術館の学芸員の ほか、かつて美術館学芸員の経験のある学 習院大学、武蔵大学、同志社大学などの先 生方にも協力を仰ぎました。千葉市美術館 からは松尾知子上席学芸員が絵画の担当と して参加、大いに活躍してくれました。ワシ

ントンD.C.の後はロスアンゼルスにも展覧会は巡回し、その入場者総数は、20万人近くに及んだと聞いていています。展覧会による日米間の文化交流、美術を介しての国際親善の実を上げました。

ところで、なぜ動物をテーマに日本文化 の特質や日本美術の特徴を示し、また語る 展覧会を企画することにしたのでしょうか、 最後にちょっとだけそのことに触れましょう。 千葉市民の皆さんは、よくご存知の通り、 市内若葉区にある縄文時代の遺跡である加 曾利貝塚から、人と犬が同じ場所に一緒に 埋葬されているのが発見されています。こ れは5000年前の昔から人と動物が親しい関 係にあったことを示しています。考古学者の 報告によると、狩猟採集の生活をし、定住 化を始めた縄文時代から、日本人は自然と の共生を図っていたというのです。このこと は、自然を克服することを命題とし文化を 育んだとされる西洋の歴史とは大きな違い があります。自然との共生、動物たちと敵 対することなく共に生きることが、日本の文 化の形成や歴史の背景にはあるというのが 一つの特徴なのです。マネージメントの父とも呼ばれ、日本美術の愛好家としても知られるピーター・ドラッカー博士は、世界中で動物の表現に最も優れているのは、日本の美術だと言っています。前述のシンガー氏も「動物を著しく多く描くのは日本美術の特徴。西洋ではあまり動物を主要なテーマとしない」ことを指摘しています。今年は「ねずみ(子)の年」です。これは「十干十二支」の考えに基づくもので、もともとは中国に始まったのです。西洋にも黄道十二宮のような考えがあります。

しかし、自分の生まれた年を、「わたしねずみ(子)」、「わたしはうま(午)年」などと 十二支(動物)で告げることは、日本以外に は無いとシンガー氏は断言するのです。

前に述べたように今年は子の年です。ネ ズミとりわけ白鼠は大黒様のお使いであり、 福と富をもたらすと日本では古くから言われ ています。みなさんにとって、本当に良い 年になるよう祈念します。

[館長 河合正朝]

「スケーパー」という存在

「目 非常にはっきりとわからない」とはなんだったのか

クロージングトークレポート

12月28日(土)に、企画展「目 非常にはっきりとわからない」が終幕しました。拡張リニューアルオープンにともなう休館前最後の展示は、すでに美術館で始まっていた工事をも包含した、大規模なインスタレーションでした。SNS での口コミがきっかけとなり、会期終盤には美術館の外まで行列ができるほどとなったこの展示。いったい「目 非常にはっきりとわからない」とはなんだったのか。会期最終日に開催されたクロージングトークのレポートを通して、その断片をお届けしたいと思います。

〈クロージングトーク登壇者〉

荒神明香(目)、南川憲二(目)、増井宏文(目)、有瀧隼人(インストーラー)、平塚知仁(テクニシャン)、藤木裕介(映画監督)、川島拓人(編集者)、畑井恵(学芸員)



て、ほんとうに作業をしているのか、あるいは仕込みなのか……。展示の重要な核を担った「スケーパー」にまつわるお話を紹介します。

展示室では、「スケーパー」と呼ばれる人たちが、一定のサイクルで登場し、作業をしていました。'landscape'の'scape'に「人」を意味する'er'をつけた、「景色の人」。ある人は作業服を着て、ある人は普段着を着

藤木 スケーパーを探し始めたんですが、なにもかも秘密なので、すごくあやしいオーディションになって……。 南川 「千葉市美術館」だめ、「目」もちろんだめ。当日、藤木さんが会場に掲出したのは、A4 の紙に「オーディション」だけ(笑)。でも、100 人を超える人が応募してくれました。

藤木 自然に振る舞えることと、とにかくタフな現場に耐えられることを基準に選考しました。

南川 謎の動作をたくさんしてもらいましたね。そこにあるそれをそっちに置いてみてください、みたいな。オーディションのあとは、野地真隆さんというインストーラーに台本のベースを作ってもらい、そこに藤木さんの修正が入り、スケーパー固有の台本ができていきました。ここを見てほしいというところはありますか。

藤木 スマホを見るときに髪を触ったり、ものを運ぶときに決まった位置で決まった歩幅になったりとか、やってくれています

南川 わかりやすいところで言えば、「そげが刺さる」。木のささくれが刺さるらしいですよ、毎回。そげ刺さりっぱなし(笑)。

参加者からの質問:スケーパーの行動から自由な部分をなくすことについて、意見の対立はありませんでしたか。 **藤木** ありました。だから、たくさん話しました。はじめは型におさまることを重要視していたんですが、みんな で議論を重ね、自由ではないなかで自由にアイデアを出してもらうことができました。それを検討し、どこまで反 映するかということを、ずっとやっていました。

南川 たとえば、きょうはイライラしているからイライラしているようにやりたいというような、台本と感情の拮抗ですよね。どちらかに振ってしまうと「自然」というものはなくなる。

藤木 動きにたいする慣れもあるので、その調整をずっと続けていました。

南川 ある種、揉め続けているからこそ、スケーパーがスケーパーとしていられるんですね。

7階と8階に仕掛けられた秘

鑑賞者の方々からは、「自分がどこにいるかわからない」という感想を数多くいただきました。なぜこのような感覚が生まれたかというと、端的に言えば、展示室である7階と8階がまったく同じつくりをしていたからです。ひとつの階を見終え、もうひとつの階に移動したときの衝撃。その背景にあった苦労やこだわりを紹介します。

有瀧 どうやって7階と8階を同じにするかは、すごく悩みました。Skypeをつなぎながら作業をしようと思っていたんですが、最終的にはそんな余裕ありませんでした。けっきょく、iPhoneで動画や写真を撮って確認しました。でも、7階が作り込まれると8階の作り込みが足りなくなり、上に行って下に行って上に行って……という繰り返しでした。

増井 こだわりでいうと、木箱の「節」はけっこう合わせています(会場感嘆)。アトリエに買ってきた木を並べて、似ているものを選びました。

南川 あとは、千葉市美術館は床の材質がさまざまなので、 足の感触を同じにするために、ぜんぶの床に同じ絨毯を敷いています。

畑井 ここに、二つの質問があります。ひとつは、「日による変動はあったのか教えてほしい」という質問。もうひとつは、「ここになにかを増やしたらどうなるんだろうと思い、作業用の手袋を置いてしまいました。わたしは犯罪者になってしまうのでしょうか」という質問。答えが出ましたね。日による変動を作っていたのは、鑑賞者のみなさんです。わたしたちは、常に同じ状況を作り出そうとしてきました。毎日閉館後にチェックをし、週に2回メンテナンスをし、なにも変化が起こらないように保ち続けてきました。

「非常にはっきりとわからない」の「わからない」について

「非常にはっきりとわからない」という展覧会タイトルは、鑑賞者の方々の「わかる/わからない」という感覚を大きく揺さぶりました。「わかる」とはなんだろう? 「わからない」とはなんだろう? そこに答えはあるのでしょうか。さいごに、「わからない」にまつわる荒神さんの言葉を紹介します。

参加者からの質問:「わかる」必要はないのだと思います。が、「わからない」の先にはなにが出現してくると思いますか。

荒神 時計のインスタレーションは、ムクドリの群れをイメージして作りました。なぜムクドリは群れになって飛ぶのか調べたんですが、理由がわかっていない。自分はこのことが、「わかる」と「わからない」のあいだだと思ったんです。空を飛んでいる瞬間だけ、「わかる」とか「わからない」から解放されて、無意識の状態で飛んでいる。かたちを作っている意識があるのか、だれが方向を決めているのかわからないんですが、集団で飛んで謎の行動をして去っていく姿を見せつけられている気がして。そのこと自体を作りたい。「わかる/わからない」から解放された瞬間を作りたい。それが自分たちの希望です。





みなさんから寄せられた 「わからない」の数々

「目 非常にはっきりとわからない」の会期中、鑑賞者の方々から、展 示をみて抱いた「わからない」を寄せていただく「わからない収集プロジェ クトーを実施しました。会場に設けられたボックスには、毎日あふれるほ どの「わからない」が詰め込まれました。心のなかに抱えきれず吐き出さ れた切実な「わからない」の数々を、ここに紹介します。



展示の前にいた初老の男性が、私とす れちがいざまに、何かメモを取りながら、 「**うん、わかった**」と小さな声で つぶやきました。私は、彼が何をわかっ たのかわからなくて**混乱**した気持ち

わからないです。わかりたいです。

わかった上でわからないことについて考えた

い。そう思いました。

怖い怖い。 自分が本当にこの世にいるの かわからなくてずっと怖かった。地球の引力 だけを信じた。引力は裏切らない。

自分は、自分以外の 人生の主人公には なれないのだと思いま

置いてあるものたちに合理性を 見出そうとする自分に気 がついた。非常にはっきりとわ からないをみているのに、わかろう としてしまうのが不思議で、どのよ るした。 パイル A 1 1 1 1 うな考えでみればいいのかわから

意味のある無意味 という言葉が頭に浮かび

あの空間に 時間はあるの ですか?

-体何を見させられたのか。東京から来 て何を見に来たのか、今日は一体何の日 だったのかわかりません。どんな仕事 に就けばいいのかも教えてほしい。

ララかんかいなうはないをしなかった。 1841 4-4 orth 200 1861 かずしわかりをおかった

昼から閉館まで居ました。わから ない状態から、わかりつつある状 態に変化していくのがわかりまし た。でも、何をわかりつつあった のかはわかりません。これを面白 いと思う**自分の頭もまた奇** 妙で面白いなと思いました。

胸ぐらをつかまれるような わからなさかと思ったら、 やさしく諭されるよ **うなわからなさ**でし た。ほっとしました。

わからない。展示から"わからない"事 へのフラストレーションと同時に、人間は "わかりたい"生き物だと思っ た。わかりたい、わかろうとしないという 事たくさんある世の中。わからないのもイ

イコトかも。わからないけど。

わからないことはないです。

見ているのか、見られているのか。 わからなくなり、トイレに入ったけ れど、ショップにも入ったけれど、 流していいのか、買ってい

どこかに説明書きがあるわけでもないのに、 みんな何かを分かったかのように行 **動していた**ことが " わからない "。 最後の 最後までわからなかった。

もう、どうしたらいいのかわからない。

わからないことが、 こんな に楽しいなんて、人間って 本当に、わからない。



「目 非常にはっきりとわからない」図録 (縦31×横20×2cm, 224p) サイズや質の異なる紙をコデックス装で綴じています



図録ができました!

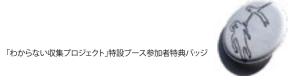
「目 非常にはっきりとわからない」の展覧会図録が完成しました。インスタレーションビュー や論考にくわえ、過去作品のアーカイブも掲載した充実の1冊です。大変ご好評をいただ き、第1版は予約のみで完売。現在、第2版を製作中です(納品は2月末を予定しています)。 購入を希望される方は、美術館にお問い合わせください。



\ Twitterでもっと読めます! /



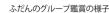
「わからない」収集プロジェクト @me wakaranai #非常にはっきりとわからない #わからない収集プロジェクト



美術館の仕事を 紹介します!



鑑賞教育





「はじめて美術館へ行ったのは、小学校の校外学習」という方もいらっしゃるのではないでしょうか。千葉市美術館では、毎年20校ほどの小中学校から1,000人をこえる子どもたちの受け入れをしており、その実施や運営も美術館の大きな仕事のひとつです。今回は、「鑑賞教育」と呼ばれるこの取り組みについて、企画展「目 非常にはっきりとわからない」でのプログラムを例に紹介したいと思います。

千葉市美術館での鑑賞教育プログラムは、 基本的に、6人程度のグループ鑑賞と個人鑑賞の2本柱で構成されています。グループ鑑賞 では、美術館のボランティアが「鑑賞リーダー」となり、彼らのファシリテーションのもと、作品を見て気づいたことなど言葉を交わしながら作品を鑑賞します。個人鑑賞では、それぞれが気になった作品を自由に鑑賞します。

しかし、「目 非常にはっきりとわからない」では、展示の性質上、従来のプログラムでの実施がむずかしく、展示に合った内容をあらたに考えることになりました。スタッフで検討を重ね、鑑賞と「振り返り」を組み合わせたプログラムを行うことに決めました。

振り返りの時間を設けた理由は、「目 非常 にはっきりとわからない」のひとつのテーマで ある「見ることの不確かさ」を体験するためです。展示室で見たもの・感じたことを共有することで、「見る」という行為がいかに多様であるかを知ることができます。グループごとに小さな輪になり、鑑賞リーダーに促されて、自分の意見を熱く語る子どもたち。現代アートのインスタレーションという、なじみがあるとは言えない展示でしたが、積極的に言葉が交わされているようすを見て、「プログラムを練り直してよかったー!」と強く思いました。

振り返りのあとは、もう一度展示室へ行き、 じっくりと展示を見返します。自分の考えを言 葉にしたり、友だちの発言を聞いたりしたこと で、より広い視野で鑑賞できたようです。

そして、千葉市美術館の鑑賞教育プログラムは、2020年7月の拡張リニューアルに伴い、「みる・しる・できるびじゅつプログラム」として生まれ変わります。新設されるスペースを活用し、受け入れ対象者の幅を広げ、これまで以上に美術館を楽しんでもらえる機会が増えそうです。千葉市美術館での経験が、子どもたちの未来を形作るきっかけになりますように!

[学芸員 庄子真汀]

2020



2020年7月11日(土)~9月6日(日)

千葉市美術館拡張リニューアルオープン・開館25周年記念 ジャポニスム─世界を魅了した浮世絵

1800年代後半、世界に衝撃を与えた浮世絵。

ピサロやホイッスラー、ゴッホなど、当時の画家たちはこぞって浮世絵から表現を学びました。

ジャポニスムの画家たちの作品を通して、浮世絵の特性と魅力を再発見しようとする、ユニークな浮世絵展です。

的北斎《富嶽三十六景神奈川沖浪裏》天保2-4年(1831-33)頃 千葉市美術館蔵

宮島達男《地の天》(部分) 1996年 千葉市美術館施

2020年9月19日(土)~12月13日(日)

千葉市美術館拡張リニューアルオープン・開館25周年記念 **宮島達男展** (仮称)

言わずと知れた世界的に活躍する現代アーティスト。 LED のデジタル・カウンターが使用された作品を見たことがある人も多いのでは? 首都圏では 12 年ぶりの個展でこれまでの活動を振り返ります。



きくちちき 《もみじのてがみ》(部分) 作家蔵 BIB2019金牌受賞

2021年1月5日(火)~2月28日(日)

千葉市美術館拡張リニューアルオープン・開館25周年記念 日・スロバキア/日・チェコ交流100周年 ブラチスラバ世界絵本原画展

2年ごとに開催している絵本原画展。

今回はスロバキアとチェコの絵本を中心に、最新のイラストレーションをご紹介します。 きくちちきさん他、日本の絵本原画も出品されます!





千葉市美術館拡張リニューアルオープン・開館25周年記念 川村コレクション受贈記念 田中一村展 千葉市美術館所蔵全作品 (仮称)

基礎的な調査から「新たなる全貌」を示して大きな反響を得た、あの田中一村展から 10 年。 その後に千葉市美術館に収蔵された作品の全て、約 100 点により画家の生涯の未知の側面を探ります。



ボランティアスタッフ募集のお客口らせ

千葉市美術館では、来館者や市民の皆様と美術館をつなぐため、「美術館を楽しもう!」を合言葉に、現在42名のボランティアスタッフが活動しています。小中学生のグループ鑑賞をサポートする鑑賞リーダー、展示室でのギャラリートーク、作品やコレクションに親しむためのワークショップの企画運営など、活動は多岐にわたります。2021年度より6期メンバーとして新たに活動に加わってくださる方を募集することになりました。2020年度に養成研修を予定していますので、関心のある方は、募集要項(3月頃より市内各施設にて配布/美術館ウェブサイトにも掲載予定)をご覧ください。



版画摺り体験の様子

鑑賞リーダーの様子